

環境に配慮した革新的な 現状課題解決技術を探求し、社会に貢献



執行役員 技術開発部門副部門長

室内 聖人

DNTコーティング技報No.13の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。
本報は発刊より「環境」・「新機能」をキーワードに社会貢献に繋がる新技術の紹介、市場ニーズに即した新商品の紹介を行って参りました。

これらの技術は現在、日本を取り巻く多くの課題の解決に役立つものと考えています。例えば、生活環境の大きな課題として道路、橋、トンネルおよび上下水道等の社会インフラ老朽化や地球環境保護等が挙げられます。社会インフラ老朽化の課題は、社会インフラが一斉に整備された1960年代当時に建設された多くが、それらの耐用年数の50年を越え、補修・更新の時期を迎え老朽化に伴う事故の急増することによるものですが、当社では本課題解決として、各施設への適切な補修材料の開発・提供を科学的なアプローチとして行っています。また、社会インフラ維持管理業務の効率化の一つとして、鋼構造物の塗膜健全度および塗膜下金属の腐食状態を診断する事業を開始し、最適な塗り替え時期や塗装仕様をご提案しています。本手法は、当社が長年研究・開発してきた電気化学的測定法の一つである「カレントインタラプタ法」を用いており、腐食の状態を非破壊で迅速かつ正確に測定できるその信頼性の高さから、平成24年10月に国際基準である「ISO 13129」に認証登録されました。

地球環境保護として当社では、より安全で性能・機能を向上させた水性ジンクリッチペイントから水性上塗塗料までの「水性重防食塗料システム」のご提供も可能としました。また、ライフサイクルコスト(LCC)の考え方を重視し、社会インフラの耐用年数の長期化、維持・管理コストの低減およびトータルVOC削減に繋がる塗料・塗装仕様の開発を長年行っており、これらの活動は本報にて一例を紹介しています。

当社では長期的かつ戦略的視野から基盤技術の構築を行い、本基盤技術に新たなアイデアを駆使した応用技術を用いて、社会が求める様々な新商品開発を全技術員の総力を挙げ取り組んでいく所存です。

今回発行の「DNTコーティング技報」No.13報につきましては、「地球環境保護・長期耐久性」をキーワードに技術活動および当社新商品の一端を紹介させていただきます。本誌が皆様との交流の場となり、新商品や新たな技術開発に繋がる契機となれば光榮に存じます。